

令和8年度 鹿谷地区市長と語る会 議事要旨

- 日時 令和8年6月2日（火）午後7時00分～午後8時30分
■場所 鹿谷まちづくり会館
■出席者 32名

1. 市政報告会

2. 意見交換会

1) 新中学校整備について、小学校給食について

意見 質問	<p>・新中学校について、工事現場の様子を見ると令和9年4月の開校に本当に間に合うのか心配している。入札不調が2回あったことや、土壌汚染により約1か月工事が停止したこともあり、不安を感じている。また、工事費増額について、市の負担が大きく増えないような対応を取ったと説明を受けているが、なぜ最初からその方法を取らなかったのか疑問。さらに、3中学校を統合するにあたり、校舎整備だけでなく、学校運営やPTA活動、生徒指導などのソフト面の準備が十分進んでいるのか心配している。準備室のような組織を設けて円滑な移行を図るべきではないか。また、海外情勢の影響による資材不足などで工期が遅れる可能性もあるのではないか。</p> <p>・小学校給食については、公費負担化されたが、児童数の多い学校と少ない学校で給食の質に差が出ないか心配している。少人数校では食材単価が高くなることも考えられるため、どの学校でも同じ水準の給食が提供されるよう市としてどのように対応しているのか。</p>
市長	<p>・中学校については、現時点では令和9年4月開校に向けて順調に準備を進めており、開校自体が遅れることはない。ただし、資材供給の問題など外的要因については予測が難しい部分がある。仮に工事が多少ずれ込んだとしても、3中学校の統合は決定しており、令和9年4月から新中学校としてスタートする。工事費増額への対応については、市の負担が大きく増えないよう工夫した結果であり、これまで説明してきた内容のとおりである。また、統合準備については、教育委員会を中心に現場の中学校教員や関係者も加わり、教育体制や学校運営について準備を進めている。大規模自治体のような専任組織ではないが、教育委員会全体でソフト面・ハード面の両方について対応している。</p> <p>・給食については、市内全小学校で基本的に統一した献立を採用しており、一括仕入れも行っているため、学校規模によって給食の内容や質に差が出ることはない。地域食材を取り入れる場合はあるが、給食費無償化によって内容を落とすこともないので安心してほしい。</p>
質問	新中学校の校長先生など管理体制はどうなるのか。
市長	現在の中学校教員や教育委員会が協力しながら、統合後の教育体制づくりを進めている。教職員体制も含めて準備を進めているため、特にソフト面については心配しないでほしい。

2) フルデマンドバスについて

意見	家族が病院勤務のためバス通勤しているが、新しい交通体系になると現在利用している18時台の便がなくなるのではないかと心配している。 また、全国的に運転手不足や高齢化が進み、バスの大きな事故も発生している。中学生が利用するスクールバスにもなるので、市は運行事業者任せにするのではなく、市としても運転手の適性検査や安全管理状況を確認してほしい。
市長	現在、ご家族が利用している便に近い時間帯の運行は確保されており、大きく不便になることはないと考えている。 運転手不足や高齢化については大きな課題と認識している。安全確保は最重要であり、事業者任せにせず、市としても安全を担保する仕組みについて検討していきたい。

3) 空き家対策について

質問	危険な空き家はどれくらいあるのか。また、近隣に危険を及ぼす空き家について、簡易代執行などの対応を進める考えはあるのか。
市長	市が特に危険と認識している空き家は17件程度ある。勝山市でも過去に代執行を実施した実績はあるが、相続問題や所有者不明などの課題があり、実施までの手続きが非常に煩雑である。現在も対応したい案件はあるが、制度上の壁により進められていない状況である。今後は固定資産税の軽減措置見直しなども含めて、空き家対策を進めていきたい。

4) 篠尾勝山線の整備について

意見	北西俣区の悲願である篠尾勝山線の未開通区間について、長年進展が見られない。少しでも前進するよう取り組んでほしい。
市長	重要な要望事項として認識している。福井県、福井市、県議会議員とも協議を続けているが、県全体の優先順位や福井市側の意向もあり、現時点では進展していない。特に市境付近は整備費が非常に高額となるため課題が大きい。しかし、市としては引き続き重要路線として要望を続けていく。

5) 防災訓練について

意見	市の防災訓練で震度5弱を想定して実施したとあったが、震度7クラスを想定した訓練も必要ではないか。 また、各地区ごとに住宅倒壊や避難所収容人数、トイレ不足なども含めた具体的なシミュレーションを行ってほしい。
市長	現在の訓練は、南海トラフ地震発生時に勝山市で想定される震度5弱を基準として実施している。もちろん震度7クラスの災害も考慮しているが、まずは発生可能性が高い災害への対応力向上を優先している。今後は区長や防災士など地域の協力も得ながら、各地区での防災訓練や避難所運営訓練も進めていきたい。

6) 中学校整備・観光政策・市の将来像について

<p>意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新中学校は敷地が狭く感じられ、生徒が十分な活動を行えるのか不安がある。また、スクールバス運行についても、実際の運用が円滑に行われるのか心配している。 ・水芭蕉やホテル整備、星野リゾート誘致などについて、市民にとってどのようなメリットがあるのか説明が十分でないように感じる。観光事業が市民生活にどう還元されるのか、将来どのようなまちを目指しているのか、もっと夢のあるビジョンを示してほしい。 ・市職員数の減少や非正規化が進み、市全体が縮小している印象を受ける。まちづくり会館の職員に正職員が配置されていないのも寂しい。市役所がブラックな職場にならないよう、人材確保にも力を入れてほしい。
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新中学校については、校舎単体ではなく、長山公園やジオアリーナ、勝山高校施設なども含めた広いエリア全体を教育環境として活用する考えであり、生徒がのびのび活動できる環境を整えたい。高校進学については、市外進学も含めて子どもたちが自由に夢を追いかけることが大切であり、市としては魅力ある中学校・高校づくりを支援していく。 ・観光については、市が際限なく税金を投入する考えはなく、観光を産業として成立させることを目指している。勝山ニューホテルやジオターミナル、水芭蕉などは、以前は毎年多額の維持管理費が必要だったが、民間譲渡や民間運営により市の負担を減らしながら機能を維持する仕組みに転換してきた。長尾山公園についても、以前は年間約4,000万円の維持管理費が必要だったが、現在は民間事業者が管理しており、市の負担は大幅に減っている。観光客の増加により、公園使用料などの収入も得られており、観光による収益を子育て支援や教育施策などに還元しながら、持続可能なまちづくりを進めていきたい。 ・市役所が働きにくい職場であってはならず、職員が安心して働ける環境づくりを進めていく。まちづくり会館の職員を正規職員で固めてほしいというご意見は持ち帰りたい。